

2006年6月23日

容器包装プラスチック使用量の削減目標値を策定 2010年に30%削減*1（1995年比）

*1 原単位（単位製品重量あたり）での使用量

日本石鹼洗剤工業会（会長・藤重 貞慶 ライオン株式会社社長）は、当工業会主要8製品群*2において、1995年を起点として2010年までに、容器におけるプラスチック使用量の30%削減（原単位指標）を目標とすることといたします。会員各社では、この目標に沿って自主行動計画を策定し、目標達成に向け施策を推進して参ります。

*2 主要8製品群 ①ボディ用洗剤 ②手洗い用洗剤 ③シャンプー・リンス ④洗濯用液体洗剤
⑤柔軟仕上げ剤 ⑥台所用洗剤 ⑦住居用洗剤 ⑧漂白剤・かびとり剤

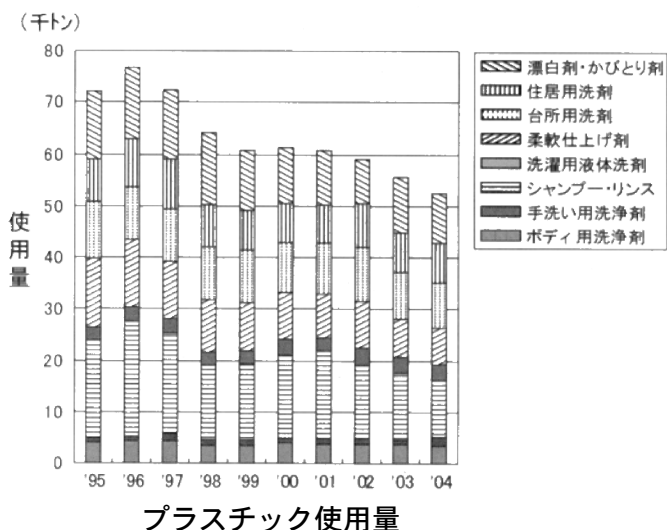
<プラスチック使用量削減・取り組みの背景>

近年、わが国では「大量生産・大量消費」によって生み出された廃棄物が増大し、最終処分場、焼却設備の立地はますます困難な状況となっています。廃棄物問題への対応は、わが国経済の持続的な発展にとって重要な課題であると言えます。こうした中、一般廃棄物のうち、容量で約56%、重量で約23%（1997年 厚生省調べ）を占める「容器包装廃棄物」について、1995年6月「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）」が制定されました。同法は現在10年目の改正期を迎え、

改正案が国会にて可決されました。日本石鹼洗剤工業会では、1995年より、業界全体でのプラスチック使用量の実態把握を行うとともに、会員各社において、プラスチック使用量の削減に努力して参りました。

<これまでの削減実績>

削減への取り組みの結果、2004年の会員会社全体のプラスチック使用量は、1995年に比べて、実量で約2万トン、27%の削減を達成しており、また、原単位あたりの使用量では25%の削減を実現しています（右図）。これは、内容物の濃縮化による「コンパクト化」や、シャンプー・リンスなどの「詰め替え用製品」および、スプレー付製品での「付け替え用製品」などの開発により、製品あたりのプラスチック使用量を大きく削減したことによるものです。



<削減目標>

日本石鹼洗剤工業会では、1995年を起点として、2010年に、製品重量あたりの容器包装プラスチック使用量（原単位）を30%削減することを目標といたします。

上記目標を達成するため、当工業会の会員各社は、自主行動計画を策定し、下記を中心とした施策を推進してまいります。

- ①詰め替え・付け替え製品のさらなる普及
- ②容器の薄肉化・軽量化
- ③製品内容物の濃縮化によるコンパクト化

また、会員各社は、当工業会に対し毎年1回自主行動計画の進捗報告を致します。当工業会では、報告に基づき毎年各社のプラスチック使用実績をまとめるとともに、計画に対する進捗確認を行います。

一方で、収集・分別されたプラスチック容器包装廃棄物の材料リサイクルでは、およそ半分が再商品化に適さないとして、埋め立て等で処分されています。当工業会では、こうした状況を改善するため、ホームページや広報誌「クリーンエイジ」、製品表示の工夫などで、生活者へ適正な排出方法の啓発を行うとともに、容器包装材料メーカーと協力しながら、洗浄しやすい容器の開発を促進し、容器リサイクルの質を上げるための技術的課題にも積極的に取り組んで参ります。

以 上

お問い合わせ窓口

日本石鹼洗剤工業会 （代表）03-3271-4301